

令和4年度スポーツ庁委託事業

令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（特別支援学校
を対象とした全国大会の実施事業）」委託事業
「第7回全国ボッチャ選抜甲子園」成果報告書

2022年12月
一般社団法人日本ボッチャ協会

本報告書は、スポーツ庁の「special プロジェクト2020（特別支援学校を対象とした全国的なスポーツ・文化大会開催事業）」委託事業として、一般社団法人日本ボッチャ協会が実施した「第6回全国ボッチャ選抜甲子園」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

1 事業目的

本事業は特別支援学校の生徒対象のスポーツの全国大会として開催し、本年度で第7回目を迎えた。

本事業は下記の5つの目的をもって開催した

- (1) パラリンピック正式競技であるボッチャの特別支援学校への定着を図る。
- (2) 予選会については、オンライン開催にすることにより、学校内での教育活動の一環として取り組めるようにし、大会が日々の学習の成果を発揮する場となることを目指す。
- (3) 特別支援学校および特別支援学級等に通学する児童・生徒が、ボッチャを通じて、意欲的に日々の体育学習に取り組めることを目指す。
- (4) 大会参加においてマナーの習得および、ボッチャを通じた選手同士の交流を図り、生涯スポーツへの意識を高める機会とする。
- (5) 将来ボッチャ選手として活躍を目指す人材の発掘の機会とする。
- (6) 大会を通して指導者の指導力向上の場とする。

未だ新型コロナウイルス感染症の影響を多く受けた生活を送る中、目標を見失いがちな子どもたちにとって、この大会が開催されることにより、日々の生活に目標をもち、生きがいを持って生活すること、生涯にわたってスポーツに親しむきっかけとなることも目的の一つとして開催している。

2 実施日程および会場

日程：予選 2022年6月10日(金)～6月18日(土)

決勝 2022年8月13日(土)

会場：予選 各学校の体育館等で課題に取り組んだ様子を、動画に納めてクラウドにアップする。

決勝 シード校2校と予選を勝ち上がった8校により港区スポーツセンターで対面で開催。

3 事業の実施体制

今大会は大会実行委員会を立ち上げ、外部と連携しながら運営した。

- ① 競技に関わる運営：実行委員会（特別支援学校関係者含む）
- ② 大会式典等演出に関わる運営：株式会社ディーエムエス
- ③ 輸送にかかわる運営：株式会社近畿日本ツーリスト
- ④ ボランティア：公益社団法人日本理学療法士協会
- ⑤ 協会協定大学：順天堂大学・杏林大学
- ⑥ オンライン配信にかかる運営：株式会社文化工房

4 実施方法

予選会はオンライン、決勝大会は対面で開催した。

競技方法は、以下の通りとした。

- ① エントリーした学校に対し、オンライン説明会を開催。
- ② エントリーした学校が自分たちの学校で課題に取り組む
- ③ 課題に取り組む様子（動画）と結果を事務局へ送る（クラウド上にアップ）
- ④ 提出された動画と記録用紙を、実行委員会の競技担当が慎重に審査
- ⑤ 審査結果に基づいて、結果発表
- ⑥ 8月13日に港区スポーツセンターで決勝大会を開催

5 エントリー校について

No.	地域	都道府県	学校名	チーム名	初	今大会シード校	
1	北海道・東北	北海道	白糠養護学校	☆北海道白糠養護学校☆			
2		岩手県	盛岡となん支援学校	シャイニングアローズ			
3		山形県	ゆきわり養護学校	ゆきわりレース			
4		福島県	郡山支援学校	ちよっと男 sea's (ちよっとだんしーず)			
5	関東	東京都	あきる野学園	あきる野 KMR			
6		東京都	永福学園	永福ファイターズ			
7		東京都	光明学園	光明サンライズ			
8		東京都	小平特別支援学校	小平プレミアムズ		第6回大会優勝	
9		東京都	鹿本学園	バンビーズ			
10		東京都	多摩桜の丘学園	多摩ブロッサムズ			
11		東京都	筑波大学附属 桐ヶ丘特別支援学校	桐ヶ丘ポロニア			
12		東京都	花畑学園	HANAGAKU 3rd			
13		東京都	府中けやきの森学園	けやっきーず			
14		東京都	墨東特別支援学校	墨東旋風 kids			
15		東京都	水元小合学園	M-KOAIANS			
16		千葉県	船橋夏見特別支援学校	なつつみーず			
17		埼玉県	蓮田特別支援学校	蓮田特別支援学校			
18		埼玉県	日高特別支援学校	かわせみくん			
19		埼玉県	宮代特別支援学校	ゆげまは			
20		茨城県	つくば特別支援学校	「One team」			
21		茨城県	水戸特別支援学校	SUITOKU 四天王			
22		神奈川県	相模原中央支援学校	KISI-KAISEI			
23		群馬県	あさひ特別支援学校	SunRise			
24		北陸 甲信越	長野県	花田養護学校	花田養護学校	☆	
25			石川県	いしかわ特別支援学校	TEAM J(アイ)		
26			富山県	高志支援学校	ゴールデン・ファイターズ		
27		福井県	福井特別支援学校	NNTK espoir			
28	東海	愛知県	一宮特別支援学校	サザンクロス			
29		愛知県	豊橋特別支援学校	とよとく SSB			
30		三重県	度会特別支援学校	チーム・WTR			
31	関西	大阪府	茨木支援学校	茨木支援学校			
32		大阪府	光陽支援学校	TEAM 光陽			
33		大阪府	藤井寺支援学校	大阪府立藤井寺支援学校			
34		兵庫県	川西市立川西養護学校	川養チャレンジャーズ	☆		

35	中国・ 四国	香川県	高松養護学校	うどん4玉		
36		鳥取県	皆生養護学校	皆生 springs		
37		広島県	福山特別支援学校	Blue Rose		
38	九州・ 沖縄	福岡県	直方特別支援学校	FNGT		
39		長崎県	佐世保特別支援学校	SASEBO BURGERS		
40		長崎県	諫早特別支援学校	諫ジュニ・ハイ		
41		沖縄県	鏡が丘特別支援学校	琉球ミラーイーグルス		
42		沖縄県	泡瀬特別支援学校	泡瀬ホワイト企業		

エントリーは、42校内初出場は2校

6 事業の成果と課題

予選会は、課題を各学校で取り組む形式のため、今大会は北海道から沖縄まで全国各地から42校のエントリーがあった。初参加の学校は2校であった。

コロナ禍となってから、大会を継続していくためにはどうすればよいか、実行委員会で協議を重ねた結果、オンライン方式で開催する方法を取り入れることになり、第6回大会からは予選会をオンライン、決勝大会を対面で開催している。

予選会をオンラインで開催することで、大会会場への移動がなく、各校で取り組むことができるため、参加しやすい大会となっており、毎年40校から50校のエントリーがある大会に成長している。

各校の課題に挑戦している予選会の様子やそれまでの取り組みが新聞等で報道されることも増えてきており、予選会を勝ち抜いて、決勝大会へ進出が決まったチームには、応援や支援をしてくれる団体等が増えてきている。また、回を重ねるごとに学校間の交流は深まってきており、学校間で連絡を取り合い、オンラインボッチャで交流をしたり、決勝大会の前の公式練習では、選手同士が集まって情報交換やエールを送りあったりする姿がみられるようになり、大会を通じて交流の広がりを感じている。

課題としては、特別支援学校の課外活動に対する取り組みは学校ごとに異なり、周知についても、都道府県によって対応が様々であるため、毎年エントリーする学校がある一方で、初出場のチームは限られ、また都道府県によっても参加が分かれてきており、参加校に偏りがある。

開催にあたり工夫した点は、以下通りとなる。

- ① 運営においては、安心安全な大会運営ができるように、専門の業者へ委託・連携により開催した。
- ② 決勝大会開催にあたっては、参加者全員に抗原検査を実施し、選手は大会側で輸送、または自家用車等での来場、スタッフもできるだけ自家用車等で来場する等の対応をし、会場内では検温や健康チェックシートの提出、手指消毒等の徹底等、感染防止対策をして開催をした。
- ③ 決勝大会は無観客での開催となったため、実況や解説を入れながら試合の様子を配信した。

【決勝大会会場の様子】



7 参加校数（応募校数）の推移

【第1回】

場 所：東京文化スポーツ会館（Bumbu）（江東区）

参加校：22校（合同チームあり）。チーム数は、18チーム。

【第2回】

場 所：港区スポーツセンター（港区）

参加校：申し込みは前年を大幅に上回る36校。

1回戦からトーナメント戦にすることにより、申し込み全校を受け入れた。

【第3回】

場 所：港区スポーツセンター（港区）

参加校：前回大会同様の36校の応募。

第3回大会より、大会名を「全国選抜ボッチャ甲子園」と変更し、参加校を絞って開催。選考の結果、全24校で開催。

【第4回】

場 所：港区スポーツセンター（港区）

参加校：第3回同様36校の応募。

今大会より今まで参加がなかった地域（学校）から応募があった。

前大会同様、選考の結果、全24校で開催。

【第5回】

場 所：初のオンライン開催。各校の体育館等で実施。

参加校：48校50チームがエントリー

エントリーしたすべての学校を受け入れて開催

北海道から沖縄まで全国各地からエントリーがあった。

予選を経て、決勝大会は各学校と港区スポーツセンターをオンラインでつないで開催。

【第6回】

予選会をオンライン、決勝大会を対面で開催。

場 所：予選 各校の体育館等

決勝 港区スポーツセンター（港区）

参加校：50校がエントリー

エントリーしたすべての学校を受け入れて開催。

【第7回】

予選会をオンライン、決勝大会を対面で開催。

場 所：予選 各校の体育館等

決勝 港区スポーツセンター（港区）

参加校：42校がエントリー

8 今後の方向性

今後の大会開催については、開催地に根差した大会として継続的に開催していくために、開催自治体や区との連携協定締結等の協力体制が構築できるよう調整を図っていく。

具体的には、開催自治体と連携することにより、所管の学校等に周知を要請したり、開催場所や近隣の学校などとも連携をして、競技普及や大会PRのためのイベントや講習会等を行ったりするなど、ともに大会作り上げていく関係を構築し、大会継続の土台を構築していく方針である。

また、次回大会以降、参加校を増加させ、大会を継続的に開催していくという目標を着実に達成することを目指し、全国特別支援学校長会（及び肢体不自由校長会）との組織的な連携を深化させて、全国の特別支援学校へ漏れなく情報が行き届くよう、方策を講じていく所存である。

その他、初参加の学校へ大会後のフォローとして、スポンサー企業等と連携して、学

校訪問をするなど、次回大会への参加意欲を掻き立て、参加継続につながるようにしていく。

開催方法については、次回大会以降は有観客開催に向けて、実行委員会で協議を重ね、体制の構築を図っていく。現在、他の主催大会ではコロナ禍においても有観客で開催をしており、経験からのノウハウを生かし、また知見も集めつつ、開催自治体や全国特別支援学校長会（及び肢体不自由校長会）とも協議をしながら、決勝大会は多くの観客に来ていただけるよう、具体的な大会運営について検討していく。

また、開催にあたり引き続き感染防止対策をしつつ、安心安全な大会として開催していくために、さらなる協賛金や助成金等の獲得による収入の確保や、開催自治体等との連携による経費の効率化を図ることにより、継続的な開催に向けて方策を講じていく。